

張 文 重・高橋健治
日本生化学会第46回大会 (1973)

3) ヒト絨毛性ゴナドトロピンの精製および特性について

広瀬信長・橋本千恵子

張 文 重・高橋 健治

日本生化学会第46回大会 (1973)

4) 酸性プロテアーゼの活性部位

高 橋 健 治

日本生化学会第46回大会 (1973)

5) 血液退縮の速度解析

伊藤道雄・西村義久

竹中 修・稲田祐二

第36回日本血液学会 (1973)

6) カイコ卵の炭水化物代謝-II

景 山 節

第6回日本発酵生物学会 (1973)

幸島野外観察施設

河合 雅雄(兼)

幸島をめぐる観光開発や観光客の増大によって、研究フィールドの維持はますます困難の度を増している。この問題の解決は究極的には幸島を国有地にする以外に方法はないので、その具体的措置について関係当局と接衝を進めている。

群れの状況

リーダーの地位、群れの社会構造は安定している。昨年に続いて成年の死亡個体が多く、死亡因の究明を検討中である。ベビーは4頭の出産のうち3頭死亡したが、これは観光のためにムギを海中にまいたもので、それとりに母ザルが海に入り、ベビーが溺死したものである。寄生虫が大量に寄生し、衰弱個体が目立った。研究班を組織し、科学研究費の交付を受けて寄生虫に関する研究を行ない、駆虫・予防の対策を講じた。

第1表 48年度中の出産

母親名	アカンボ名	性	出生日	備 考
ツ ガ	—	♂	5月31日	7月27日死亡
ザ イ	—	♀	6月5日	6月10日死亡
サ ツ キ	ウシ	♂	7月4日	
カ キ	—	—	7月7日	死 産

第2表 48年度中の死亡

個体名	生年	性	死亡年月日
ツ ガ	1960	♀	1973年7月19日
ネ ギ	1966	♀	8月初旬
イ ネ	1959	♀	8月初旬
ネ コ	1968	♂	8月8日
ザ ボ ン	1956	♀	8月8日
サ サ	1955	♀	8月22日

昭和48年度における使用経費の概要は第3表のとおりである。経常維持費は甚しく不十分で、増額が望まれる。なお、ジープの老朽化のため、トヨタ・クラウン1台を犬山の研究所より移籍した。

第3表 48年度経費概算

項 目	金 額 (千円)
ジープ・ボート維持費	477
備 品 代	194
光熱・水道・電気代	80
電話・通信費	113
消耗品 (エサ代を含む)	506
環境整備	140
貸金 (7, 8月の島のサル管理)	60
人 件 費	1,413
計	2,983

研究概要

1) 生態学的・社会学的研究

河合雅雄・三戸サツエ¹⁾

山口直嗣²⁾・冠地富士男³⁾

前年度からの継続で、ポピュレーション動態に関する諸資料を収集した。月一回の体重測定を定例化した。自然食物の摂取について季節変化を記録した。両調査とも着実な資料をつみ重ねている。社会変動の通年記録をとった。

2) 内部寄生虫に関する研究

8月22日に死亡したメス(ササ)に、多量の内部寄生虫が寄生していることを発見。検便を行なったところ、96%が虫卵を保有していた。とくに、多数個体に胃虫の重度寄生が見られ、昨年から今年夏にかけての死亡個体増大の大きな原因となっている可能性が強く、早急な対策が望まれた。そこで科学研究費(総合A, No. 834071)の交付を受け、寄生虫の駆除と衛生問題を含む研究班を結成してこの対策にあたった。中間宿主として、胃虫は

¹⁾ 教務補佐員

²⁾ 文部技官

³⁾ 文部技官

糞食性昆虫、条虫はササラダニ類であることがわかり、腸結節虫と糞線虫は餌場の土壌が中心等、寄生虫の感染経路がほぼ判明した。2月に行なった駆虫の結果および寄生虫の種名の同定は、日下検討中である。

〔研究組織〕

研究総括 大 沢 濟
 駆除および予防に関する研究 松 林 清 明
 内部寄生虫相に関する研究 町 田 昌 明
 (国立科学博物館動物研究部)
 疫学的・生態学的研究 東 滋
 松 林 清 明
 病理学的研究 千 葉 敏 郎
 8月下旬におこなった駆虫薬投与前の糞便中虫卵検査(調査頭数73頭)の結果はつぎのとおりである。

虫 卵 名	保有頭数	%
鞭 虫 卵 (<i>Trichuris sp.</i>)	18	24.8
胃 虫 卵 (<i>Streptophalagus sp.</i>)	69	94.5
糞 線 虫 卵 (<i>Strongyloides sp.</i>)	10	13.5
腸結節虫卵 (<i>Oesophagostomum sp.</i>)	1	1.3
条 虫 卵 (<i>Bertiella</i>), 他	23	31.5

この結果、調査頭数の96%が虫卵を保有していることがわかった。

3) 新奇な状況に対する社会的反応に関する研究

日米科学協力によって、E. Tobach(American Museum of Natural History, Curator)と室伏靖子(心理研究部門)らによって、'Social responses among *Macaca fuscata fuscata* to novel situation' のテーマで、協同研究が行なわれた(心理研究部門の項参照)。

昭和48年度に、本施設を訪問あるいは利用した研究者は延べ370人である。

サル類保健飼育管理施設

岩本光雄(兼)・千葉敏郎

登介寿実・松林清明

前年度発行年報(第3巻)にあるように、本施設(略称:サル施設)用の新施設棟・検査舎・放飼場の使用態勢は、施設場の緑草化を含めて昭和47年度後半に一応確立されるに至った。職員の構成は前年度どおりであり、上記教官のほか、技官7名、補助員3名を含んでいる。新施設棟の本格的活用にあたっては、なお下水道や浄化槽の機能の不備の調整、検疫用・飼育用ケージの不足等、多くの問題が生じたが、充分留意の上、適正な運用がはかられた。

本研究所へのサルの入荷、本研究所内実験室で使用されるサルの供給は、すべてサル施設をステーションにしている。昭和48年におけるサルの変動状況の概要は第1表のとおりである。サル購入には、所内における科学研究費の一部が充当されており、また、サル用エサはすべてサル施設で一括購入し、所内へ供給した。

なお、49年度研究用サルとしては、サル代・エサ代・薬品代等の物価急騰にもかかわらず予算増加が期待できないため、48年度より下廻る供給にならざるを得ないと懸念されている。また、47年7月より、サル施設職員一同が世話人となって進めていたサル塚建設用基金の募金と建設は、48年4月25日のサル塚除幕式並びにサル供養をもって終了した(建設費120,000円、式費用30,000円)。

第1表 48年度サル変動状況

種 類	入 荷		出産	実験殺	検疫殺	死				亡		年度末 保有数
	購入	寄付				事故	呼吸器系	消化器系	循環器系	寄生虫症	その他	
〔原 猿〕												
スローロリス	4									1		3
オオガラゴ												6
〔新世界ザル〕												
ロザル											1	2
コモンリスザル										1		11
ノドジロオマキザル												1
チューベイクモザル												2
〔旧世界ザル〕												
カニクイザル (fa)		1	3			1						13
ボンネットモンキー			1									12
アカゲザル (m)	104		6	43	2	31	4	2	2	1	5	114